



3年生が「昔のくらしと道具」の出前授業をしたよ!

2月13日(金)、徳島県立博物館の磯本さんをお招きし、3年生が社会科の出前授業として「昔のくらしや道具」について、昔の生活や道具のお話と実物を見せていただきました。さらに、貴重な昔の道具でしたが、実際に手にとって見たり、触りながら道具の使い方を学ぶことが出来ました。

3年生の子どもたちにとっては、初めて見る道具がたくさんあり、職員玄関に昔の道具を準備しているときから興味を持っていました。磯本さんからは、一つ一つ丁寧に道具の名前や使い方についてお話をしていただきました。

私自身にとっては、懐かしい道具でしたが、子どもたちにとっては、自分の日常生活の中ではほとんど見る事がなくなった道具だったので、使い方や名前が分からない道具がたくさんありました。例えば、まきでご飯を炊くための道具の釜やご飯を食べるときに使うお膳、また、水を汲んで運ぶための道具などは、実物を初めて見た子どもがほとんどだったと思います。また、アイロンも電気アイロンを家庭で見たり、家族が使っていたりするのを見て使い方については知っている子どももいましたが、炭を使ったアイロンの使い方は知らなかったようでした。今回の学習で、自分たちの使っている道具と昔の道具を比べてみることで、それぞれにいろんな新しい発見が出来たようでした。

磯本さんからは、次のようなお話をしていただきました。

- ①昔の道具は、生活の中でどのように使われていたのか。
- ②道具を役割ごとに仲間わけをするとどうなるのか。
(食べることに使うもの、着ることに使うもの、運ぶことに使うもの)
- ③道具は、どのように変わってきたのか。
(食事の作り方や食べ方、せんたくやアイロン、ふくそう、ものの運び方)
- ④なぜ、くらしがかわってきたのだろうか。

